

## 第1 常任委員会 行政視察報告書

- 1 日 時 令和4年7月13日(水)～7月15日(金)
- 2 視 察 先 高知県 本山町 ※7月14日(木)視察
- 3 目 的 留萌市観光グランドデザインの策定を踏まえ「(株)モンベルと連携したアウトドアの拠点整備」として先進地である本山町を視察し、海をメインとしたアウトドアの拠点が予定される留萌市にとって、どのような可能性・メリットがあるのか、課題は何かを調査研究する。
- 4 視察対応 本山町 澤田 和廣 町長、本山町政策調整課 中西 一洋 課長  
モンベルアウトドアヴィレッジ本山店 山中 公平 店長
- 5 派遣議員 村山ゆかり、横田 美樹、海東 剛哲、珍田 亮子  
戸水美保子、笠原 昌史、野崎 良夫
- 6 報告内容 「アウトドアヴィレッジ本山」

### 概要

- 四国の中央に位置する好立地、高速道からのアクセスの良さを活かし、自然資源を活用したアウトドア体験や、自然環境を活用した全町での交流・観光振興による観光客の誘致を目指し、「全町アウトドアの里づくり」を進めている。  
高知県のアウトドア総合メーカー(株)モンベルの監修を受けた施設として整備し、年間6万人超の観光誘致を目指している。

### 施設整備事業費

- 総事業費 **859,612千円**

(ビジターセンター、温泉施設、飲食施設、団体宿泊棟、屋外工事、コテージなど)  
財源は、過疎対策事業債、高知県交付金。**町負担は、7%。**

### 拠点施設

- ・ビジターセンター棟 ※モンベルストア併設 ・レストラン棟 ・シャワー棟
- ・温泉施設棟 ・コテージ棟 ・団体宿泊棟 ・屋外工事(駐車場、芝、庭木)

### 雇用

- 雇用24人(正規社員7人、繁忙期はインストラクターなど増加)

ビジターセンター棟、レストランは、(株)モンベルの社員が運営。コテージ棟や廃

校舎を利活用した団体宿泊棟の清掃などは、地元本山町の住民が担っている。

### 住民の交流と憩いの場づくり

- ①アウトドア体験、レストラン、入浴施設など気軽に利用できる場づくり。
- ②スポーツ・文化合宿で地域外との交流を促進。
- ③トレーニングルームなどによる健康づくりを推進。
- ④わがまちガイドの育成で魅力の発信と交流の場づくり。  
ガイド養成→ラフティング13人、カヌー6人、登山7人、  
アウトドアリーダー(4回養成研修実施、延27人)

### 考 察

- 30年前から行ったカヌー大学の実績の中で、(株)モンベル会長との出会いがきっかけとなって、「アウトドアの里づくり」が始動していることは、川を活かした各種体験が大きな力となっている。留萌でのアウトドア展開には、実績が乏しいが、「海」をキーワードとしたアクティビティの充実が必要不可欠と考える。観光グラウンドデザインが机上の構想にならないためにも、地元住民のアウトドア体験を積極的に展開していくことが大切。
- 本山町が施設整備全般を担い、(株)モンベルへの指定管理による施設運営となっている。指定管理費は、運営経費に不足が生じた金額としているが、その額がどの程度か回答はしていただけなかった。留萌市が展開する場合、施設整備にかかる予算、運営経費など慎重に調査、検討し持続可能な施設運営を見据えることが重要と考える。
- アウトドアヴィレッジ本山がオープンして、翌年からコロナ感染拡大による影響が出たものの、コテージ(5棟10室、1室宿泊料26,510円、6人まで宿泊可能、最大60人収容)の利用は、順調。しかし、温浴施設とレストランが低迷。当初は、観光客ばかりでなく、地元住民の利用を期待したが、利用は少ない。特に温浴施設は、利用者が少なくとも光熱費がかかるため、気軽に利用できる憩いの場づくりが課題となっている。ただ、大人数に対応できるようシャワー台数を設置することで、合宿などにも対応できていることは参考にしたい。  
留萌市においても、温浴施設の必要性はあるものの慎重に調査、検討が必要と考える。
- 廃校舎を利活用した団体宿泊施設、体育館、研修施設は、合宿や修学旅行などで活発に活用されている。また、トレーニングルームの設置など地域住民の健康維持・増進に利用されている。さらに、近郊の修学旅行にも利用され、地元の魅力再発見に繋がっていたことは、多いに参考としたい。
- 資源の磨き上げ・ガイド養成で受入体制整備に力を入れている。特にアウトドア各種養成研修を開催しており、地元リーダーを養成することで、域外からの専門イン

ストラクチャー雇用を減らすことができる。また、登山道の整備は、地域おこし協力隊の協力も得ていた。人材の育成・活用に工夫が必要と感じた。

■ 本山町が、パートナーとしてモンベル社員と連携し、しっかりと事業を進めている。「モンベルには、会員が100万人いるので、モンベルのブランド集客力を活かさない手はない」と言われ、留萌の観光振興に大きな期待を感じた。

■ 大きな課題と感じたのは、地元住民の利用が少ないことで、気軽に利用できる憩いの場づくりをしなければならないと話していたこと。観光客にスポットをあてつつも地元市民が愛せる施設を目指したい。

また、澤田和廣町長と1時間も懇談する機会をいただき、熱き思いが伝わってきました。「職員も楽しまなきゃ」と話し、共にアウトドアを体験している様子にふれ、留萌市職員も担当者のみならず、オール留萌で創り上げていくことが大切であると感じた。